⑵　人（法人を含む。）の生命、身体又は財産の保護のために利用目的の達成に必要な範囲を超えて、個人情報を取り扱う必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき。

（例）

・　急病人の血液型や家族の連絡先を医師や看護師に伝える場合

・　大規模災害や事故等の緊急時に、負傷者情報を家族に提供する場合

・　暴力団等の反社会的勢力情報、業務妨害行為を行う悪質者情報を企業間で共有する場合

・　製品に重大な欠陥があるような緊急時に、メーカーから顧客情報を求められ、これに応じる必要がある場合

⑶　公衆衛生の向上又は児童の健全な育成の推進のために特に利用目的の達成に必要な範囲を超えて、個人情報を取り扱う必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき。

（例）

・　感染症の予防のための調査に応じるとき。

⑷　国の機関若しくは地方公共団体又はその委託を受けた者が法令の定める事務を遂行することに対して農林水産関係事業者が協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるときに、利用目的の達成に必要な範囲を超えて、個人情報を取り扱う場合（この場合において、農林水産関係事業者は、任意の求めの趣旨に照らして目的外利用の必要性と合理性が認められる範囲内で対応するものとする。）

（例）

・　任意の求めに応じて、警察や税務署に対して個人情報を提出する場合

・　一般統計調査に回答する場合

第５　個人情報の取得に関する義務

１　適正な取得（法第17条関係）

農林水産関係事業者は、偽りその他不正の手段により個人情報を取得してはならない。

（違反例）

・　本人をだましてその個人情報を取得すること。

・　第三者提供の制限（第７の規定参照）に違反して提供している業者から事情を知って個人情報を取得すること。

２　取得の制限

農林水産関係事業者は、その事業の遂行に必要な場合に限り、個人情報を取得するものとする。また、思想、信条、宗教その他社会的差別原因となり得る個人情報の取得又は保有に当たっては、その適正な取扱いの確保に特段の配慮を加えるよう努めるものとする。

（例）

・　衛生管理の徹底が必要な業務に従事する者の健康状況を把握する必要がある場合

３　取得時の利用目的の通知又は公表（法第18条第１項関係）

農林水産関係事業者は、個人情報を取得した場合は、あらかじめその利用目的を公表している場合を除き、速やかに、その利用目的を、本人に通知し、又は公表しなければならない。

（例）

・　電話帳や職員録等から個人情報を取得した場合

・　個人情報の第三者提供を受けて、個人情報を取得した場合

・　個人情報の取扱いの委託を受けて、個人情報を取得した場合

４　書面等による直接取得時の利用目的の明示（法第18条第２項関係）

農林水産関係事業者は、契約書、懸賞応募はがき、アンケートやユーザー入力画面への打ち込みなど書面等により、直接本人から個人情報を取得する場合は、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示しなければならない。ただし、人（法人を含む。）の生命、身体又は財産の保護のために緊急に必要がある場合は、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示する必要はないが、その場合には、３の規定に基づいて、取得後速やかにその利用目的を、本人に通知し、又は公表しなければならない。

なお、「本人に対し、その利用目的を明示」とは、本人に対し、その利用目的を明確に示すことをいい、事業の性質及び個人情報の取扱状況に応じ、内容が本人に認識される合理的かつ適切な方法による必要がある。

（例）

・　往復はがきの往信はがきに、社会通念上、本人が認識できる場所及び文字の大きさで利用目的を記載する。

・　面談中、本人に対し、定款等のうち利用目的の記載部分を指摘する。

・　ユーザー入力画面において、送信ボタン等をクリックする前等に利用目的が本人の目にとまる形で配置・記載する。

５　利用目的の通知等をしなくてよい場合（法第18条第４項関係）

次に掲げる場合については、３、４及び第４－２－⑵の規定は適用しない。

⑴　利用目的を本人に通知し、又は公表することにより本人又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合

（例）

・　暴力団等の反社会的勢力情報、疑わしい取引の届出の対象情報、業務妨害行為を行う悪質者情報の提供者が逆恨みを買うおそれのある場合

⑵　利用目的を本人に通知し、又は公表することにより農林水産関係事業者の権利又は正当な利益を害するおそれがある場合

（例）

・　新規開発部門が収集した情報の種類が明らかになることにより、企業の健全な競争を害する場合

・　暴力団等の反社会的勢力情報、疑わしい取引の届出の対象情報、業務妨害行為を行う悪質者情報を取得したことが明らかになることにより、情報提供を受けた企業に害が及ぶ場合

⑶　国の機関又は地方公共団体が法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、利用目的を本人に通知し、又は公表することにより当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき。

（例）

・　犯罪捜査への協力のため、被疑者等に関する情報を取得した場合

⑷　取得の状況からみて利用目的が明らかであると認められる場合

（例）

・　今後連絡を取り合うために名刺交換をした場合

・　出前の注文を電話で受けた場合

・　着信において相手方の電話番号が非通知でない場合で、同じ用件で当方から相手方に電話を掛け直す場合

第６　個人データの管理に関する義務

１　データ内容の正確性の確保（法第19条関係）

農林水産関係事業者は、利用目的の達成に必要な範囲内において、個人データを正確かつ最新の内容に保つよう努めなければならない。

２　保存期間

農林水産関係事業者は、その取り扱う個人データについて、利用目的の達成に必要な範囲内で保存期間を定めるよう努め、当該保存期間経過後又は利用目的を達成した後は、遅滞なくこれを消去するよう努めなければならない。

３　安全管理措置（法第20条関係）

農林水産関係事業者は、その取り扱う個人データの漏えい、滅失又はき損の防止その他の個人データの安全管理のために必要かつ適切な措置を講じなければならない。その際、農林水産関係事業者において、個人データが漏えい、滅失又はき損等をした場合に本人が被る権利利益の侵害の大きさを考慮し、事業の性質、個人データの取扱状況及び個人データを記録した媒体の性質等に起因するリスクに応じ、必要かつ適切な措置を講じるものとする。

なお、不特定多数者が書店で随時に購入可能な名簿で、事業者において全く加工をしていないものについては、個人の権利利益を侵害するおそれは低いと考えられることから、それを処分するために文書細断機等による処理を行わずに廃棄し、又は廃品回収に出したとしても、事業者の安全管理措置の義務違反にはならない。

（例）

・　組織的管理措置　個人情報の取扱いに関する内部規程の整備、安全性に関する監査の実施、６に規定する個人情報保護管理者の設置その他の安全確保のための組織体制の整備に関する措置